

日立市立山部小学校

第3・4学年1組 道徳科学習指導案

1 主題名 進んでみんなのために働く C(13) 勤労、公共の精神

2 教材名 ごみステーション（東京書籍「新しいどうとく」3年）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

「勤労、公共の精神」の内容項目に関して、中学年では「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く」としている。この時期の児童は、係活動や当番活動を通して、みんなのために働くことの楽しさや喜びを味わえるようになってきている。しかし一方で、働くことに慣れてしまったことで自分自身のことを優先し、活動が疎かになることがある。さらに、みんなのために働くことを負担に感じる児童もいる。そこで、自分の働いた結果が周囲とどのように関係してくるのかを振り返り、進んで働いたときのよさや充実感を共有することで、やりがいをもってすすんで働こうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態（第3学年：男子2名、女子1名 第4学年：女子2名 計5名）

実態調査

（令和3年6月9日）

質問事項	回答
家事の中で、あなたの仕事はありますか。それは何ですか。（複数回答可）	ある5（床ふき1、お風呂掃除2、食器を並べる1、洗濯を干す1） ない0
それは何のためにやっていますか。	こづかいのため やってと言われるから お母さんが楽になるから 当たり前のことだから

本学級の児童は、5名という少人数のクラスのため一人あたりの係・当番活動がとても多い。しかし低学年での経験から、どの活動にも見通しをもって取り組むことができている。今回、家での手伝いや自分の仕事に対してアンケートを実施したところ、家庭での自分の役割に対して「こづかいのため」「やってと言われるから」という理由が挙げられ、自分の意志ではないけれど仕方ないのでやっているという意識をもっていることが分かった。学校での様子からも、進んで活動する児童がいる反面、手伝ってもらいたい児童はいつも同じであり、学校生活をみんなでよりよくしようとする気持ちには個人差がある。本時の学習では、これまでの活動を振り返り、自分が役割を果たすことが家や学級だけでなく、地域や学校全体に大きな意味をもつことに気付き、自分のためだけでなく周囲の人のためという気持ちをもって活動できる態度を育てたい。さらに、働くことへの喜びややりがいをもつことで自発的な活動にもつながっていききたい。

(3) 教材について

本教材は、ごみ捨て係を宿題として行う「わたし」と、笑顔で自発的にごみ捨て場の掃除をしている「おじいさん」の行動をもとに、働くことへの向かい方の違いからねらいに迫るものである。アンケートの結果と結び付け、主人公である「わたし」が感じているゴミ捨て係の面倒さに十分共感させることで、自我関与できるよう働きかける。また「なんの（誰の）ために働くのか」という問いから、それぞれの目的を考えさせ、おじいさんはやらされているのではなく自発的に活動していること、地域にも貢献していることに気付かせたい。さらに、そのときの主人公の気持ちと自発的に働く「おじいさん」の姿を比較検討しやすい板書構成の工夫を行い、2種類の絵（天使と悪魔）を使って心の中の葛藤を客観的にとらえ気持ちの違いを考えられるようにしたい。

4 本時の学習

(1) ねらい

働くことの大切さを知り、自ら進んでみんなのために働こうとする態度を育てる。

(2) 準備・資料

TV, PC, 挿絵, 2種類の絵, ワークシート, ボランティアをしているところの写真

(3) 学習指導過程

過程	主な学習活動と発問 (太字は中心発問)	予想される児童の反応	支援と評価の観点 ◎UDの観点に基づいた支援
導入	1 児童自身の振り返りを行い、学習課題を確認する。 ○ あなたは「はたらく」とき、なんのために働いていますか。	・家族のため ・クラスのため ・友達のため ・こづかい(自分)のため	・場所や時間を示すことで、その都度だれのために働いてきたのかを振り返り、学習の方向付けを行う。 ・事前アンケートの結果を示すことで、働くことに対する認識を押さえねらいの価値を意識できるようにする。
展開	2 「ごみステーション」を聞いて、話し合う。 ○ 「うちのごみすてがかり」になった「わたし」はどんな気持ちだったでしょう。 ○ おじいさんに「どうしてかたづけているのですか。」ときいた「わたし」はどんな気持ちだったでしょう。 ○ ごみステーションの片付けをしているおじいさんと自分を比べて「わたし」はどんなことを考えたでしょう。 3 これまでの自分自身を振り返る。	・早起きはいやだな。 ・ごみは重い。 ・なんだかくさい。 ・ごみすてはやめればよかった。 ・なんで朝からずっと片付けてるの？ ・自分のごみを捨てたら、帰ればいいのに。 ・私はしゅくだいでやっている。おじいさんはみんなのためにやっている。 ・おじいさんは笑顔でやっている。きれいになって気持ちよさそう。 ・ロング昼休みの後、そうじするとすっきりする。 ・友達の片付けを手伝ってありがたいって言われてうれしい。	◎デジタルコンテンツを使って、朗読している箇所が視覚的にもわかるようにする。 ・挿絵の表情から、ごみ捨て係になったときだけでなく、夏休み1日目にしぶしぶごみ捨てに行った「わたし」の気持ちを考え想像できるようにする。 ◎2種類の絵(天使と悪魔)を用いて問いかけ、心の中の葛藤を客観的に考えることで、意見を出しやすくする。 ・おじいさんの姿から自分のごみを捨てに来ただけではないことを押さえ、主人公との違いを比べられるようにする。 ◎考えを書くのが難しいときには、教室のゴミ箱からゴミがあふれていたかどうか、より身近な例を挙げ考えられるよう支援する。 (評価) おじいさんと私の違いから、進んで働くことの大切さを考えることができるか。(発表・ワークシート) ・掃除だけでなく、係や委員会の仕事等みんなのためにできたときには気持ちが良いことを振り返られるように助言する。
終末	4 写真を活用して、これからできることを考える。	・通学路をきれいにしたい。 ・古紙回収に協力したい。	・山部小でのボランティア活動の例から、今後自分でできることを考えやすくする。